

# 冬休みすいせん図書(3・4年)



令和元年12月 杉教研学校図書館部

もうすぐ冬休みです。いつもより少し長い本を読んでみるのはいかがでしょうか。  
部屋をあたたくしてゆっくり読書もいいですよ。

「学校へ行こうーちゃんとりんー」  
いとうひろし 理論社

学校がきれいではないけれど、あたりまえのように毎日学校へ通うことに疑問をもったこと、ありませんか。

三年生のちゃんとりんは朝、学校へ向かう道々、大きな事件にまきこまれたら行かないでいいと考えます。

はたして、二人は学校に行くのか、それともさぼってしまうのか…。

「ユンボのいる朝」  
麦野 圭 文溪堂

小5の幹の住むマンションから見える十階建てのビルの上にユンボ(ショベルカー)がのった。このきかいのそう作をするのは作業員の博巳さん。幹はいろいろな悩みや秘密を博巳さんに聞いてもらう。

続きは読んでみてのお楽しみ!

「オオイシさん」  
北村直子 偕成社

すもうのけいこ、つけもの石、映画の大道具にと、大忙しのオオイシさん。

ある日、新しい映画のさつえいにやってきて、海におちてしまった。

自力で海から出てきたら、えいがは大ヒット。転がって角がとれて丸くなったオオイシさんは、またまた大人気に。

「なん者ひなた丸」シリーズ  
斉藤 洋 あかね書房

「なん者」と呼ばれるにん者の見習い少年ひなた丸は、祖父であり“にん者”を極めた“ぬん者”雲隠三蔵から様々な試練を与えられる。

果たして、ひなた丸は立派な“にん者”になれるのだろうか?

「いえでででんしゃ」

あさのあつこ作

佐藤 真紀子絵 新日本出版社

家出した子のねがいなら、なんでもかなうでんしゃです！？妹思いのさくら子は、ママから「ムジツのツミ」でしかられ、生まれてはじめて本気の家出をした。夕ぐれの駅にやってきたのは茶色のすごいボロ電車。家出した子はただで乗れると車掌さんはいった。となりのクラスのけいすけくんも飛び乗って、「いえでででんしゃ」の旅がはじまる！

「もののけ屋」

廣嶋 玲子

ほるぷ出版

「あんなことができたらなあ」「こんな力があればなあ」と深あいため息をついた悩める子供のもとに、どこからともなくあらわれて、不思議な力を貸してくれる男。その名は「もののけ屋」。赤と白のド派手な着物と極彩色の羽織には、何やら怪しくうごめく影。さあ、この男に会えたあなたはラッキー？それとも…。銭天堂作者のシリーズ物。

### その他のおすすめの本

本の名まえ	作者	出版社
あそびうたするもの このゆびとまれ	中脇初枝	福音館書店
がんばれ給食委員長	中松まるは	あかね書房
オオサンショウウオみつけたよ	にしかわ かんと	福音館書店
キュリオシティ ぼくは、火星にいる	マーカス・モートン	BL 出版
レンタルロボット	滝井幸代	学習研究社
ルドルフともだちひとりだち	斉藤洋	講談社
おーい、こちら灯台	ソフィー・ブラッコール	評論社
ふしぎ駄菓子屋 銭天堂	廣嶋玲子	偕成社
栗林さんの虫めがね 発見	栗林慧	フレーベル館
あいことばは名探偵	杉山亮	偕成社